

事業所名:グループホーム やわらぎ
 作成日:平成 22 年 3 月 14 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆にも目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

目標達成計画					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を2ヶ月に1回定期開催の予定のところ、今年度はまだ3回しか開催していなかった。	予定通り2ヶ月に1回の定期開催をする。	外部評価のあった2月に予定通り開催。4月に開催予定の会議を予定を変更し3月に開催、その後の会議は、予定通り6月より2ヶ月に1回行う。	6ヶ月
2	34	日中の避難訓練、消化訓練は行っている。消防署立会いや近所への知らせはしていない。	夜間想定も含めて消防署参加のもと、非難訓練を行う。また、緊急時連絡網に近所の方の連絡先を入れる。	緊急連絡網に、運営推進会議のメンバーである方の連絡先を入れる(2月の運営推進会議で承諾済み)。消防署参加の避難訓練を秋に行う。	6ヶ月
3	1	法人の基本理念を受けてホームで話し合いをして介護目標を作りホーム内に掲示しているが、介護目標に沿ったケアができていないかの振り返りは不十分である。	基本理念を受けて作った介護目標を職員全員で共有し、振り返りの場をもつ。	基本理念を受けてホームで作った介護目標を毎朝の申し送りの時に唱和し、職員全員で共有できるようにする。毎月の職員会議のときに、介護目標に沿ったケアが出来ていたかを振り返る。	2ヶ月
4	33	「医療連携体制及びit重度化、看取りに関する指針」を法人が作り、入居時に家族に指針の説明を行い同意を得ている。職員の間での十分な話し合いはされていない。	指針の内容について話し合い、職員全体の意識の統一を図る。指針を具体化するにあたっての技術、知識などのスキルアップを図る。	指針の内容を職員全体で改めて共有し、今現在のホームの体制で「できること、できないこと」を明確にしていく。看取りに関する研修などに参加し、技術、知識のスキルアップを図る。	12ヶ月
5	45	毎日午後の入浴支援はしているが、全利用者が入浴できる体制は組めないのので一日おきの午後入浴になってしまう。	利用者が入居前の入浴習慣を把握した上で、誰もが入居前の入浴習慣を維持できるよう体制の見直しをしていく。	利用者の入居前の入浴習慣を家族より聞き取りを行う。まずは少人数から入居前の入浴習慣を維持できるケアを行っていく。法人に職員の勤務体制の直しをかけていく。	12ヶ月
6	43	ホームで排泄チェックに使用している様式では一日の排尿、排便の回数しか把握できず(日勤ではリーダーのみ記入、夜間は夜勤者)、排泄パターンの把握ができない。	24時間一覧の排泄チェック表を検討し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握する。	24時間一覧表の排泄チェック表を作成し、職員が記入しやすい場所におく。また、これまでは日勤はリーダーのみが記入していたが、新しい様式ではリーダー以外の職員も記入できるようにする。	1ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入記入して下さい。項目が足りない場合は、行を挿入して下さい。